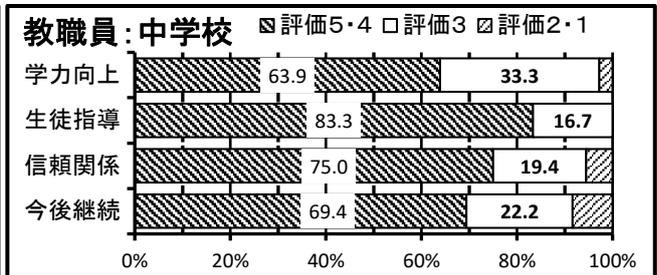
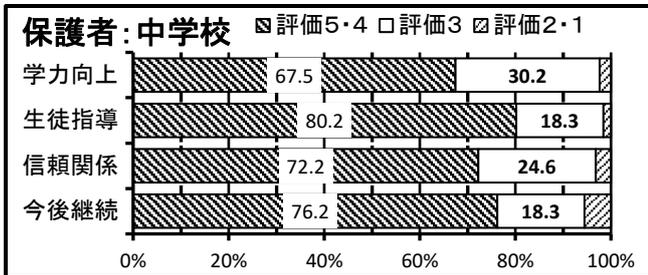
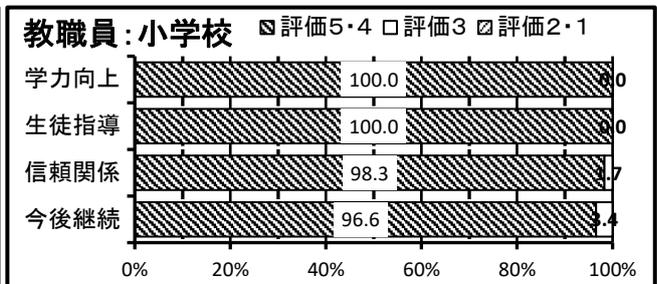
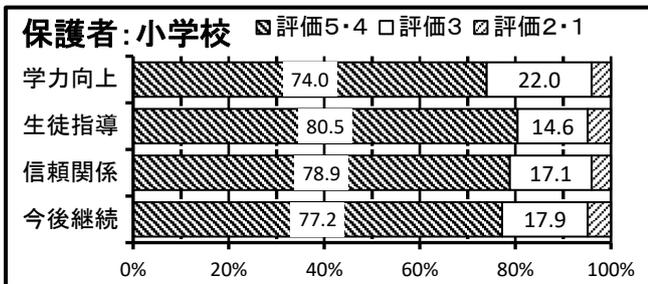
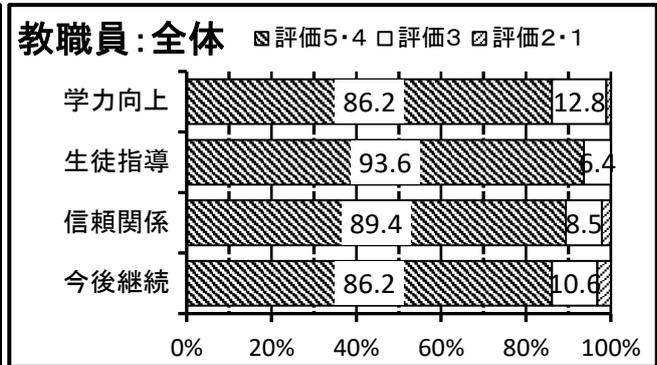
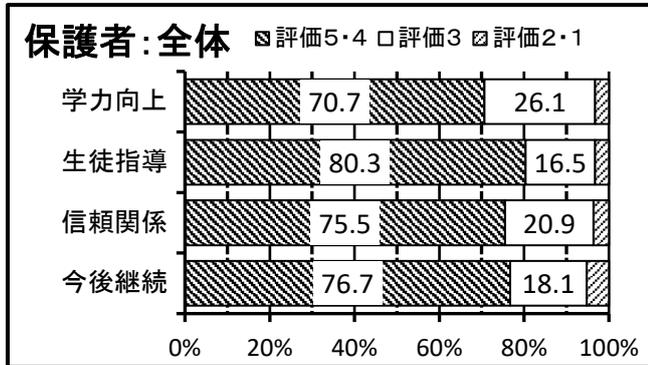


1 調査対象

- 保護者→30人学級実施学年249名 小学校3校 4学年(飯野小2・6年、加久藤小5年、真幸小6年)
中学校3校 3学年(飯野中1年、加久藤中3年、真幸中2年)
- 教職員→市内小中学校 全教職員96名

2 アンケート結果

- 3つのねらい「学力の向上」「生徒指導の充実」「信頼関係の深まり」と「今後の継続」について評価
- 5段階評価(5:大変効果的、又は是非継続 4:効果的、又は継続 3:わからない 2:効果が無い、又は続ける必要なし 1:逆効果、又は全く続ける必要なし)



結果の考察

- 保護者・教職員ともに「学力向上」「生徒指導」「信頼関係」の全てで概ね効果的と評価している。
- 保護者よりも教職員の評価が高い。特に教職員の小学校は評価が高い。
- 保護者、教職員ともに中学校よりも小学校の方が評価が高い。
- 学力向上より生徒指導に効果を感じている保護者・教職員の割合が高い。特に中学校が顕著である。
- 今後について、保護者は70%以上、教職員は80%以上が継続を望んでいることがわかる。

3 主な意見より

- 保護者、教職員の多くが30人学級は教師の目が行き届き、子どもにとって有効であると考えている。また、教職員では、多様な子どもたちのニーズに応えるためには必要だと感じている。
- 保護者、教職員ともに、講師の指導力についての意見が見られ、柔軟な活用方法を求める意見もある。
- 小学校教職員からは、働き方改革の観点からも有効であるとの意見が見られる反面、中学校教員からは授業時数増加により授業の準備時間が失われるなどの意見も見られる。
- 昨今の教員不足から教育の質の低下や継続を心配する意見も増えている。

4 今後の課題

- 30人学級採用の講師の人材確保、指導力の向上
- 30人学級講師の弾力的運用